

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/Bフロア)

事業所番号	2774500991		
法人名	有限会社エフ・エフ産業		
事業所名	グループホーム桂苑		
所在地	大阪府泉佐野市羽倉崎一丁目1番4号		
自己評価作成日	令和5年9月13日	評価結果市町村受理日	令和5年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和5年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事作りは、利用者様が過ごされるリビングでスタッフがやっている。においや作る工程、包丁で野菜を切る音など五感で感じて頂き、また食事を通して昔を思い出していただけている。現在は、介護度が高くなり調理での参加は難しいが、食器洗いやお盆拭き、テーブル拭き等をスタッフと一緒にいき、家庭的な雰囲気がある。洗濯物量みやシーツ交換などを出来る方には、それを維持していただき、必要とされているという、やりがいや生きがいになるように支援している。コロナ禍になり、以前の様な外出は、難しくなっているが、天候の良い日は、敷地内の駐車場を草花を見ながら散歩したり、たこ焼きパーティーや流しそうめん、屋台などのレクリエーションを取り入れ楽しんで頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に職員全員で唱和してから、業務に入るようになっている。職員全員に浸透するように各事務所・ロビー・玄関など目の付く所に掲示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍前は、お正月やえべっさんに近所の神社に参拝したり、喫茶店へお茶を飲みに行ったりしていた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の介護フェスティバル・ラン件の参加を通じて、地域の人々に認知症の人の理解や支援方法を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、町内会役員・民生委員・家族様・行政等に参加して頂き、活動や事故の報告・事故防止の対策などを報告し、ご意見を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて日々の活動や事故防止の対策、また、困難事例等を報告し、より良い支援の為に意見を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加し、伝達研修を行い身体拘束については、理解できている。玄関の施錠は安全の為やむを得ず行っているが、利用者様の状況を見て散歩を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、研修会に参加して理解を深め、施設内で定期的に虐待について話し合う機会を設けており、虐待の危険性が無いかに注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、伝達研修を行い制度について理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学での説明や契約時・解約時・料金改正時は、理解・納得をして頂けるまで十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃から、職員はご家族様とコミュニケーションをとりつつ、意見・要望等を頂いている。また、玄関先に意見箱を設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の勉強会や日々のケアの中で職員同士で意見交換している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が1日のうちの長い時間を過ごす職場を快適で明るい環境作りに努め、またリフレッシュ出来るように、週2回以上の公休と有休を取得できる様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれのレベルに応じた法人内外の研修を受け、仕事に対する向上心を高めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業者連絡会の役員として、イベントや研修会に参加し、ネットワーク作りに努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に関わる職員で気づきシートを作成し、個々に気づいた事・本人の想い・希望等を記入していき、それをヒントにケアに繋げ、安心して生活して頂けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期面談やサマリー等、情報収集した内容について、しっかりと把握するように努めている。家族様の面会時・来苑時にコミュニケーションを図り、困りごと、ご要望等を言う事が出来るように、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族様が何を必要とされているのか？支援を見極める為には、より一層のスキルアップが求められ、職員間での情報共有と担当者会議に於いての意見交換に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分の家族であったら、どうするだろう？と考えるケアに努めている。日々の生活が平穏である為に利用者様と自身がお互いに助け合えるよう、関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染予防の為、面会に制限を設けているが、毎月家族様へ利用者様の様子を介護経過報告者にて報告させて頂いている。また、普段の利用者様との会話の中で家族様のお話を盛り込むようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防の為、外出を控えている為、馴染みの場所に行く事も馴染みの人に会うことも難しいが、本人との会話の中で、話題として少しでも関係が途切れないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置は、利用者様ひとり一人が孤立しないように、またトラブルにならない様に気を配りながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されても可能であれば、面会に伺い、退去後も不安な事があれば相談に応じ、本人と家族をフォローし、支援に努めていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設で生活していく中で、信頼関係の構築に努め、一人ひとりの想いや希望・情報を引き出し、支援するよう留意する。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族・ケアマネから情報を頂き、入居されてから本人とコミュニケーションを取り、馴染みの暮らし方などの把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの得意分野ややりたい事を大切に、決して無理する事なく、穏やかに過ごして頂くように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の望んでいる暮らしに近づける為、現状・考える視点・解決すべき条件をスタッフで共有し、本人家族参加型のカンファレンスを適宜開催している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉やその時の状況を記録し、日常的にスタッフ間で情報を共有している。気づきやサービス実施状況をモニタリングし、次へのケアへ活かせるように実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化に即時対応し、提携医療機関への通院同行等をスタッフが支援している。食事形態は、個々のニーズに対応し提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に、運営推進会議を開催し、情報を共有し、地域社会で暮らし続けていけるように支援している。コロナ禍前は、地域ボランティアや保育園児の慰問・家族交流会などを行っていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を尊重し、入居前からの医療機関への受診の継続を行っている。事業所に提携医療機関からは、ひと月3回の往診が行われ、施設看護師・スタッフが個々の身体状況を主治医に上申し、適切な医療を受ける事ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の様子がいつもと違う場合には、施設看護師に相談し、必要であれば、提携医療機関に受診したり、訪問看護を受けて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が決定すると早急にサマリーを作成し、医療機関に提出している。入院中も必要であれば、病棟看護師と情報を交換し、できるだけ短期間に治療を行い、退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期支援については、家族や医療機関と話し合い、施設でどこまでの支援が出来るかを見極め取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故及び急変時対応マニュアルを作成し、いつでも手に取れる場所に保管している。利用者様の急変や事故発生時には、昼夜問わず提携医療機関に搬送する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した消防訓練を年2回実施している。消防訓練には、利用者様も参加されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ・入浴時は特に羞恥心に配慮した対応が求められる。強く拒否をされた場合は、無理強いすることなく、様子を見て再度対応したり、別のスタッフに対応をしてもらうなど、本人を尊重した対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの身体機能や出来る力を活かして穏やかで安全な日常生活を送れるように支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が退屈そうにされている時は、簡単な作業や家事を手伝って頂いたり、傾眠が強い時は、居室に戻って臥床を促したりと、その日の体調に合わせて生活をして頂き、本人の希望に添えるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で着る服を選ぶことが出来ない方には、その方の好きな色や物の把握に努め、気持ちが明るくなるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ランチョンマットや食器類、盛り付けに気を配り、一人ひとりの体調に合わせて、キザミ食やミキサー食に変更し、提供している。家族のようにみんなで食卓を囲み、食後は一緒に食器洗いやお盆拭きを手伝って頂いたり、食事の時間が楽しい時間になるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表や食事量の摂取状況の表を利用し、1日を通し、どれだけ摂取出来ているかを把握し、利用者様の体調をチェックしている。また、キザミ食やミキサー食等で利用者様に応じた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の歯肉の腫れや義歯による傷の有無を毎日チェックし、残存機能を活かし、可能な方は、自分で歯磨きをして頂き、不足分のケアを行う。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表を活用して、利用者様の排泄サイクルやADLを把握し、状況に応じた声かけにて排尿を促している。清潔保持、プライバシーの確保に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に冷たい牛乳を提供したり、食事量や水分量をチェックし、不足分は声かけにて促す。また、利用者様に応じた運動・体操に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や利用者様の思いに出来るだけ寄り添い、安心出来る空間づくりを心掛けている。一人ひとりの状況に応じて、清拭・シャワー浴・入浴と臨機応変に対応している。身体の清潔保持、細菌感染予防、心身機能を高め、健康を維持出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯に安心して眠れるように、日中は短時間の睡眠を取って頂いたり、レクリエーション等を取り入れている。なかなか寝付けない方には、しばらく話を傾聴して気分を落ち着かせて頂いてから再度臥床して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬について、いつでも説明を確認できるようにしており、職員同士利用者様の情報を共有し、申し送りノート・受診簿に記入し、変化や気になる事があれば、担当医に相談して指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケやボール遊び・塗り絵・習字など興味がある事をして頂いたり、洗濯物を畳んだり、取り込んだり、食器を洗うなどの自宅でされていた事と同じ家事を手伝って頂く事で、張り合いのある日常を過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染を防ぐため、以前のような外出は難しいが、気候のいい日に敷地内駐車場を散歩して草花を見ながら外の空気を感じて頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で個人のお小遣いを管理しており、以前は本人の欲しい物を買に行けたが、現在はコロナ禍で外出が難しく、職員が代わりに買い物に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話をしたいと希望された時は、時間帯と頻度を考えて、電話して頂いている。手紙や葉書のやりとりも、本人の希望があれば支援させて頂く。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や廊下に職員と利用者と一緒に制作した壁飾りが飾っており、季節感を採り入れている。空調は、年間を通して快適な温度に設定しており、各居室に訪室し、適切な温度であるか配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間では、一人ひとりの出来る事に合わせて作業して頂いたり、テレビ観賞して過ごされ、また居室に戻って臥床される方もおり、個人の主体性を尊重して支援させて頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物や好みの物は、持ち込んで頂き、家族写真を飾ったり、本人の居心地の良い居室づくりを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや食堂、居室の場所がわかるように、壁に掲示している。また、職員が見守りしているので、声掛けしたり、誘導させて頂いている。		